

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 2009年10月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4079400190		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム なごみ苑		
所在地 (電話番号)	〒822-1201 福岡県田川郡福智町金田987番地 (電話) 0947-48-3222		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年10月23日	評価確定日	平成21年11月18日

【情報提供票より】 (平成21年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 7 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤 15人 非常勤 3人	常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築 7年
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は 1日 860円			

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	23 名	男性	8 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ももちはまクリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福智町役場、小学校、保育園、コミュニティーセンター、住宅団地、交番などの恵まれた環境の中に、病院を改築し開設されて7年目になるグループホームなごみ苑がある。地域住民との交流と、利用者一人ひとりの残存能力を大切に、その人らしい暮らしを見守ることを理念の柱として掲げ、職員全員が理解し共有して介護サービスに取り組んでいる。今年、広い庭に菜園を作り、ゴーヤ、ミニトマト、キュウリ、ナス、豆などを利用者と一緒に収穫し、料理して食事をすることを生活リハビリの方法として実施し、身体機能維持、向上に繋げている。居宅療養管理指導を実施し、提携医、歯科医、看護師との連携をとり、利用者への健康管理体制が出来ている。また、地域の行事に利用者職員が参加し、ホームの花火大会には模擬店を出店し、近所の子ども達や地元の方々も参加し、交流の輪が広がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善点は6件であった。今後は「権利擁護に関する制度の理解と活用」「運営に関する家族等意見の反映」「人権教育・啓発活動」「災害対策」などが課題である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	1年に1回実施の外部評価を目標に、前回の改善点に全職員で取り組み、職員一人ひとりが評価の意義を理解し、目標を設定して、出来ることから取り組み、実施していく努力をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は家族代表、区長、民生委員、行政職員、ホーム施設長が参加し、2ヶ月ごとに開催している。ホームの現状、行事、今後の課題などを報告し、各参加者からは、情報提供や質問、要望など、時間がたつのを忘れるくらい活発な会議として、ホーム運営に欠かせない会議になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	外部、内部の苦情相談窓口を掲示し、意見箱を玄関に設置して、家族の苦情、要望を受けているが意見はほとんど出てこない。家族の心情を理解して、職員は家族の訪問時に親しく接する機会を作り、意見が出やすいように工夫し、悩み事や心配事等を、気楽に話せる家族会を発足して、ホーム運営に意見の反映が出来る工夫が望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、利用者職員は美化運動、敬老会、公民館で開催される歌や踊りに参加したりしている。また、ホームの庭で行われる花火大会や模擬店などに近隣の子ども達、地域住民や運営推進会議メンバーも参加し、楽しい時間を過ごしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の人々との交流を図りホームの理解を高めます」という理念を掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けること、そしてホームが地域の一員として認められるよう努力することを謳っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼時に職員全員で理念を唱和している。施設長、管理者、職員は、理念を共有し理解して実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者と職員は美化運動、敬老会、公民館で開催される歌や踊りに参加している。また、ホームの庭で行う花火大会や模擬店などに、近隣の子ども達、住民や、運営推進会議のメンバーが参加し、楽しい時間を過ごしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、外部評価の意義を理解し、評価を元に具体的な改善を進めている。今回の自己評価は、ユニット毎に職員の意見を聴きながら管理者がまとめる形で作成した。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、家族代表、区長、民生委員、行政職員、ホーム施設長が参加し、2ヶ月ごとに開催している。ホームの現状、行事、今後の課題等を報告し、各参加者からは、情報提供や質問、要望など、時間が経つのを忘れるくらい活発な会議として、ホーム運営に欠かせない会議になっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会の会合や職員の勉強会が町役場で開催されるなど、市町村の協力を得ながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度のパンフレットは、玄関の壁に掲示しているが、制度について学ぶ機会を持っていない。</p>	○	<p>日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修会に参加し、利用者、家族に、いつでも説明や支援ができる体制を整えることが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の苑日より、行事や利用者の暮らしぶりを伝え、3ヶ月ごとに、家族へ利用者の報告書を送付している。日頃の様子、行事の時の写真を撮りためて利用者ごとのアルバムを作成し、家族の来訪時に見て頂いている。</p>		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部、内部の苦情相談窓口を提示し、意見箱を玄関に設置し、家族からの苦情、要望を受けているが意見はほとんど出てこない。</p>	○	<p>家族の心情を理解し、家族の悩み事や心配事を気楽に話せる家族会を設置して、家族の意見がホーム運営に反映出来る工夫が望まれる。</p>
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少なく、利用者や職員は馴染みの関係である。異動が避けられない場合は、利用者へのダメージを少なくするような配慮をしている。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されている</p>	<p>職員の採用は、性別や年齢の制限はなく、ホームでは男女を問わず幅広く職員が働いている。職員の更衣室、ロッカーが整備され、職員が生き生きと働けるよう、職場環境を整えている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる</p>	<p>管理者は職員に、利用者は人生の先輩であり、言葉遣いがとても大切であることを伝えている。</p>	○	<p>行政等が主催する人権研修会や内部で講師による研修会を実施し、職員全員が共有し、人権教育、啓発活動に繋がっていくことが望まれる。</p>
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の段階に応じた内部研修、法人内研修の受講の機会を設け、サービスの質の向上に繋げている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会合が毎月町役場で開催され、他の事業所と交流し、情報交換を行い、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者に対しては、見学や体験入居などを行い、利用者、家族が安心して、納得して入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から昔の歌を覚えてもらったり、洗濯物をたたんだり、食器を拭いたり一緒に言いながら、喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の言葉に耳を傾けながら、利用者の思いや意向を汲み取る努力をしている。また、意向の表出の困難な利用者は、過去の履歴から丹念に読み取ったり、家族から情報を得るなどしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の思い、意見を聞いたうえで、協力機関の医師、看護師の意見を聴き、担当者会議で介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎に見直している。利用者に変化が生じた場合は家族、医師、看護師、職員で話し合い、その都度、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム独自の、歩行訓練や立ち上がり訓練、指の訓練などの機能訓練に力を注ぎ、利用者に柔軟な支援をして、効果が出ている。利用者、家族からも信頼を得ている。		
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導の契約を結び、月2回の往診、週1回の訪問看護、訪問歯科を行っている。また、利用者、家族の希望する医療機関を受診できるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、利用者や家族の意向を伺い、関係機関との連携をとりながら対応している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、言葉遣いや対応の仕方について、利用者一人ひとりの尊厳を傷つけないよう、繰り返し職員に指導している。個人ファイルの保管などにも充分配慮している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、食事の時間などにも柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや力を活かしながら、一緒に食事の準備をし、後片付けをしている。職員と利用者が一緒にテーブルについて楽しみながら食事をしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ利用者の希望を聞きながら支援している。入浴を拒否する利用者に対しては、細やかな配慮、声かけを行い、入浴していただけるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、掃除(モップかけ)、畑の手入れ、貼り絵、塗り絵など、利用者一人ひとりが持っている力を活かし、張り合いのある毎日を過ごせるよう支援している。調査に伺ったときは、皆さんでテーブルについて手作りカレンダーの制作中であった。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、畑仕事、花壇の水やりなど、利用者一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の癖や傾向を掴み、見守り対応することによって、日中、鍵をかけないケアを実践している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は、災害時の避難経路、避難場所などは把握している。	○	地域に協力を呼びかけ、消防署の指導のもと、夜間を想定した定期的な避難訓練を行うことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、食事や水分の摂取量を記録し、利用者一人ひとりの食べる量や栄養バランスを把握し、支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダー、壁飾り、貼り絵などが飾られ、季節感や生活感のある温かい家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごせるように工夫をしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、利用者の馴染みのタンスや仏壇などを持ち込んでもらい、居心地よく落ち着いて過ごせるよう支援している。		